

議 事 録

会議等名称	平成30年度 第1回伊那市子ども・子育て審議会
日 時	平成30年7月10日(火) 午後6:30～8:00
場 所	市役所 303会議室
議 題	保育標準時間認定について 児童数減少地域の保育園について 等
議 事 内 容	
<p>1 開 会 (18:30)</p> <p>2 委員委嘱 選出団体において改選となった委員の委嘱を行う。(3名)</p> <p>3 あいさつ (18:33) 廣瀬 伊那市保健福祉部長 伊那市では、保育料の県下最低レベルへの引き下げや、西箕輪支援センターの開設及びセンターの無料化、市内施設での実施等病児保育の充実、全園での保育園11時間開園等、さまざまな子育て支援策を行っている。本日の議題についても積極的な意見交換をお願いしたい。 倉澤 審議会長 西日本の豪雨災害で子どもも命を落としている悲しい状況だが、報道を見ると近隣の子どもを自分の孫のように気遣っている。地域で子どもを育てる姿を学ばなければならない。更に子育てしやすいまちとなるよう、審議をお願いしたい。</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 協議事項 (18:40) (1) 保育園標準時間認定について <事務局> 伊那市の保育時間は、現在8時～16時までの8時間となっており、それ以上保育が必要な子どもについては、申し込みにより、延長保育というかたちで保育を行っている。全園での11時間開園を始めたことを受け、保育標準時間の適用を行っていきたい。 ～ 以下、資料1について説明 ～ <委 員> どのような書類の提出により2号3号の認定を行っているのか。また、認定後、求職中の人についての確認期間、方法とその対応について伺いたい。 <事務局> 次回提示する。 <委 員> 保育園の開園を6時30分までに変えたというのは延長時間を変えたということか、保育時間を変えたということか。今回保育料が2段階になるということか。 <事務局> 延長時間を変えたということ。保育料は就労状況により2種類の認定区分になる。 <委 員> 2段階ということを示しているのか。</p>	

- <事務局> 審議会では以前より示しているが、保護者宛てには混乱しないよう、短時間の料金表のみで説明してきている。
- <委員> 標準時間の金額について、近隣市町村と比べてどうなのか。
- <事務局> 階層が自治体によって違うので一概に比較はできないが、県下でも低いレベルになっている。
- <委員> 具体的に比較資料を出してもらえないか。
- <事務局> 検討する中での伊那市独自の比較方法であり、各町村で見解が違うので、19市の確認が必要となるので、了解が得られれば掲示する。
- <委員> 審議会の中だけでも出してもらい比較検討をするべきだと思うのでお願いしたい。
- <委員> 階層により短時間と標準時間の差が違うが、短時間+延長で考えた場合、預ける時間により、低階層の方が標準時間適用が有利になると思うが、階層間の差についてどのように考えているか。
- <委員> 保育短時間の延長分を標準時間に傾斜配分しているということか。
- <事務局> 基本的に短時間認定にはやむを得ない場合がある場合以外は延長保育はないと思われる。現在延長保育を利用している人が標準時間の適用になると思われる。保育短時間+延長保育3時間分の金額より、標準時間が上回らない方向で考えている。
- <委員> ある程度厳しい基準で判断していかないと育児をしたくないばかりに標準時間を選択する人が増え、11時間預ける可能性がある。求職中の人について、基準は設けているのか。
- <事務局> 国指針に沿って90日を目安に確認を行い状況把握を行っていききたい。
- <委員> 2号3号認定の基準を満たしていない人が保育園に入園していると思われるので、基準ははっきりした方がよい。
- <事務局> 国指針に沿いながら保護者ニーズを考慮して運営していききたい。
- <委員> 短時間のみで行っている市町村はどの位あるのか？
- <事務局> 把握している範囲では伊那市のみ。

(2) 児童数減少地域の保育園について (19:15)

- <事務局> これまで保育園整備計画に基づき、老朽施設の建替えと併せ統合による保育運営の効率化を図りつつ環境整備を行ってきた。児童が減少していることに伴い、中山間地域の保育園のあり方を検討していききたい。

～ 以下、資料2について説明 ～

《委員より資料の提出があり説明》

- ・全議員総意の意見として施設整備基準、小規模保育園における休廃園基準を廃止すべきということで市長に対し提言を行っている。

- <委員> 児童減少の地域も保育の必要性がない児童が保育園に入っている可能性があるので、公平性を考え、希望すれば受け入れてもらえるということではないことも考えなければこの問題も語れないのではないか。
- <委員> 地域の中で入園条件に該当する園児がいることは間違いない。子どもが減っていく中で、保育園は地域の中での小学校へつながるコミュニティとして位置されている。園児数が減ってくる中でこの基準により、東部、西部地域で休廃園の問題が出てきた。地域で維持したいと思っても負担になっている。地域活性化の観点からも

この基準は問題であるというのが市民の声であり、東部・西部地域ではとりわけ要望が強い。議会では、小学校区に1保育園を重視しているが、現在伊那西部保育園がこの基準によって廃園の方向になっている。地域の声を知るとどうしても設置してほしい旨の要望が市長に出ており、突然基準が示されたので地域としては混乱をした経過がある。議会としては、地域住民の願いとはかけ離れていると判断し、伊那西部保育園は廃園すべきでない旨提言している。

<委員> 地域に保育園を置くことに対しては反対しているわけではないが、そこに本来保育が必要ない子どもについて入れることなく国の方針に基づかなければならないと思う。

<委員> 国の方針に基づく入園については別問題かと思うが、基準があることによって地域の住民が苦しんでおり、移住者を連れてくる努力もしている。地域の移住定住の問題にも絡めて考えていかなければならない。そういう意味からも地域がこの基準によって苦しんでいることを理解いただきたい。

<委員> こういった基準の変更や廃止等はどこの機関又は部署で行われるのか

<事務局> 議会承認を受けるものではなく、審議会で意見集約していただきながら子育て支援課が主体となり、最終的に市の方針として示される。

<事務局> 今回は資料提供をさせていただいた。子どもにとってどんな環境がよいのか方向性を考える中で次回審議をいただきたい。

<委員> この提案は地域住民、とりわけ高遠、長谷、伊那西部と話をしてきた上でのもの。各地域と議会は話をしてきたので、審議会としても住民の意見を聞いて審議していくことも大事かと思うので機会をつくってもらいたい。

<会長> 事務局で検討をお願いしたい。

(3) その他 (19:35)

特になし

6 その他 (19:36)

(1) 子ども・子育て支援事業計画について)

<事務局> 29年度実績及び30計画をまとめてあるので確認をお願いしたい。

～ 以下、資料3について説明 ～

意見等 特になし

(2) その他 (19:45)

《委員より資料提示》

- ・幼児教育無償化に向けて内容の承知をお願いしたい。

無償化が行われることにより利用希望者が増えることが予想される中で、ただ家に近いから、保育料が安いからという理由ではなく、子どものことを考えて、各家庭の教育理念に沿った園を選ぶことが大切であり、幼稚園やこども園も考えてもらいたいと思っている。伊那市でも公平な認定区分の審査基準の見直しをしてもらいたい。

<委員> 整備計画の中の改修計画予定は変更になっているのか。30年度に改修する予定の園があったと思うが。

<事務局> 大規模改修については整備計画の中で予定を立てているが、具体的には「実施計画」の中で事業を行っており、今後の整備の仕方についても検討しながら実施していきたい。見直し等により、整備計画についての年度ずれは出てきている。

= 次回開催日は会長、事務局で調整する。 =

7 閉 会 (20:00)